

熊谷市

妻沼東中学校 長井小学校 秦小学校

目指す児童生徒像

- 学習の基礎・基本を身に付け、自分の考えを適切に表現できる児童生徒
- 意欲的に学習に取り組み、家庭学習に取り組む習慣を身に付けた児童生徒
- 時間を守る、だまって人の話を聞く、整理整頓ができるなど、基本的な生活習慣を身に付けた児童生徒

重点目標

- ① 「計算」の基礎・基本の定着を図る。
(3つの達成目標「計算」正答率を県平均以上にする。)
- ② 全教科で「わかる授業」を工夫し、児童生徒の学習に対する意欲化を図る。
(県学習状況調査の全教科の正答率を、県平均以上にする。)
- ③ 小中一貫した指導内容を設定する。(生徒指導上の約束事項の統一化。「規律ある態度」の『ていねいな言葉遣い』『話をしっかり聞き発表できる』における達成率向上。)
- ④ 家庭での学習習慣を定着させる。
(ゲーム・テレビ等の時間の減少と家庭学習時間や読書時間の増加を実現する。)

平成25年度 事業計画

	重点目標との関連	主な取組	主な工夫・手立て	
必須メニュー	「埼玉県小・中学校学習状況調査」結果や「教育に関する3つの達成目標」の検証結果の分析・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・「計算オリンピック」テスト(年3回) ・学習規律に関する目標設定と定着に向けた取組 ・「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業実践 ・「書くこと」の継続指導と言語環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携を重視し、同じ時期に同じ問題で実施する。 ・月毎の重点目標を設定し意識化を図る。 ・焦点化、視覚化、共有化に配慮した誰にでもわかる、できる授業づくりに留意する。 ・新聞コラム、要約を通して、読む・書く力を伸長する。 	
	9年間を見通したカリキュラムの編成	<ul style="list-style-type: none"> 【編成する教科等】 ・国語「書くこと」 ・算数「数と計算」・数学「数と式」 	<ul style="list-style-type: none"> ・24年度に作成したカリキュラムについて、確実に実施する中で随時検討し、重点的に取り組む単元や内容について精査する。 	
	児童生徒の交流(合同行事、合同授業等)	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動体験 ・生徒会の小学校訪問 ・合唱コンクール見学 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生が中学生の活動の様子を実際に見たり聞いたりする機会をつくることで、中学校生活への期待感を高める。 	
	教職員の交流(合同研修、乗り入れ授業等)	<ul style="list-style-type: none"> ・合同研修会(3回) ・合同授業研究会(3回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の教員が他校の授業を参観し、協議を行うことで、互いの指導に対する理解を促進する。これにより、小学校では中学校での学びを見据え、中学校では小学校における学びの履歴を踏まえるなど、小・中の系統性を大切にした指導につなげていく。 	
	小学校高学年の一部教科担任制	<ul style="list-style-type: none"> ①② 	<ul style="list-style-type: none"> (長井小 週14時間) ・6年算数 ・6年理科 ・6年社会 (秦小 週4時間) ・5・6年算数 ・5・6年理科 	<ul style="list-style-type: none"> 【期待できる効果】 ・児童一人一人の実態に応じた指導を行うことにより、学ぶ意欲を高め、学力向上を図ることが期待できる。 ・中学校の教科担任制へのステップとなり、中学校の授業への不安解消につながる。
選択メニュー	小・中学校教員のチームティーチング	<ul style="list-style-type: none"> ①② 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年総合 週0.5時間 妻沼東中→秦小 ・5・6年外国語活動 週1.5時間 妻沼東中→長井小 	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかな指導を充実させることにより、学び方や考え方を身に付けさせる。 ・小・中の学習内容の一貫性を図るとともに、中学校の学習への円滑な接続を意識して指導に取り組むようにする。
	個別の教育支援計画		<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士などの専門家から、児童生徒への支援アドバイスを受ける「小中一貫教育巡回相談」の機会を設ける。

『指導力向上を図る合同授業研究会』

1 視点・キーワード

- (1) 教職員の意識をつなぐ
- (2) 授業改善

2 概要

(1) 組織との関連

ア 「3校教頭会」で研究会の日程を調整する。

イ 「学習指導部」で「授業における共通重点事項」を共同研究する。

A 押さえない学習規律（返事・姿勢・準備等）

B ユニバーサルデザイン（焦点化・視覚化・共有化に重点を置いた、「誰にでもわかる」授業実践）

C 小中一貫教育の充実（キーワード：情報共有・共通理解・共通行動）

(2) 実施の手順

ア 授業公開に向けた指導案検討会を実施する。

イ 授業公開及び合同授業研究会を実施する。

（年3回）

ウ 各校で授業実践の効果及び改善点を協議する。

3 評価

- (1) 各校の教育活動や小・中相互の学習内容を知ること、実感の伴いながら小中一貫教育の重要性を認識できた。
- (2) 3校教員の関わる機会が増えたことで、教員同士の人間関係が深まり、指導力向上を目指した意見交換が充実できている。
- (3) 合同授業研究会に指導者を招聘したことで、小・中学校の指導をつなぐ共通認識の深化と指導の質の向上が図られた。
- (4) 平成24年度「教育に関する3つの達成目標」の「計算」と「書く」の達成率では、同児童生徒集団の経年変化で見ると、全学年で上昇した。

4 主な課題と留意点

- (1) 合同授業研究会実施のための時間の確保と会議の効率化に留意する。
- (2) 3校が共通意識をもってユニバーサルデザインの視点を大切にした授業実践を積極的かつ継続的に行う。



小・中合同研修会



小・中
共通
生活のやくそく



算数科における
習熟度別学習



ユニバーサルデザインの
視点を大切にした授業